



下大和田谷津田だより



2004年1月号

第31回谷津田ブランド・プロジェクト(YPP) 古代米のもちつき、ペッタン

12月23日 晴れ

抜けるような青空の下、みんなで収穫した緑米の餅つきをしました。まずは「チャーリーエンターリング」と「フィールドビンゴ」でこの季節の谷津田をゲーム感覚で散策。谷津の北側の田んぼには氷が張り、畦には霜柱が伸びる中、まだ付コが跳ねているのに驚き！暖かい日だまりの水路には夕かが姿を現しているなど、たくさんの発見がありました。餅つきはみんなの力で、蒸す、つく、味をつけるの作業がどんどん進みました。一番人気の餅つきは子ども用の杵もあってみんなで「ペッタン、ペッタン」、6升のお餅をつきました。緑米の玄米を使った緑色のお餅、精米した緑米に赤米を混ぜた淡いピンク色のお餅、と珍しいお餅は、きなこ、大根おろし、あんこ、雑煮となって次々みんなの口に。自分たちで収穫したお米を使ったお持ちは一味違いますね。竹で黒米や赤米のご飯も炊き、今年最後のYPPはお腹一杯のイベントとなりました。お腹が満足すると、竹で弓矢を作ったり、たき火で遊んだり、思い思いに初冬の谷津田を楽しみました。

(参加者：大人39人・小学～高校生17人・乳幼児6人、報告：高山邦明)

第47回「下大和田谷津田の 観察会とゴミ拾い」報告

12月7日 晴れ

小春日和の初冬の谷津田でした。暖かくメダカやドジョウが田んぼや水路で姿を見せていました。花や虫の種類は減りましたが、ヒメジョオンやセイタカアワダチソウの花にはハナアブやホソヒラタアブが訪れていました。田んぼの畦にはコバネイナゴがたくさんいて歩を進める度に、もう冷たいだろう田んぼの水に飛び込んでしまうのが可愛そうになるくらいでした。大塚さんの田んぼでは湧き水が土を吹き上げていました。

今日はコースを一巡り観察した後、種籾用に残しておいた緑米と赤米の稲刈りをして、すぐ千刃扱ぎによる脱穀をして終了しました。お昼には田中先生が朝市で仕入れたマグロの鎌を塩焼きで味わうというおまけつきで楽しみました。

開花植物：ヒメジョオン、ハルジオン、セイタカアワダチソウ、ハハコグサ、ハキダメギク、アイノコセンダングサ、トネアザミ、セイヨウタンポポ、オオジシバリ、ノゲシ、オニノゲシ、キツネノマゴ、オオイヌノフグリ、ホトケノザ、シロツメクサ、タネツケバナ、ノミノフスマ、ウシハコベ、ジュズダマ。

昆虫：オオアオイトトンボ、ハナアブ、ホソヒラタアブ、コカマキリ、オオカマキリ、コバネイナゴ。

・オオカマキリがコバネイナゴ襲って喰っているのが観察されました。

他：イオウイロハシリグモ、メダカ、ドジョウ、アメリカザリガニ、ヨコエビ、カワニナ、マルタニシ、オオタニシ、ニホンアカガエル、カナヘビ。

・ヤマカガシが何者かに喰われ骨と尻尾の方が残っている生々しい死体が畦にありました。

鳥：ジョウビタキ、メジロ、アオジ、セグロセキレイ、シジュウカラ、ヒヨドリ、キジバト、コゲラ、ウグイス、モズ、ハシブトガラス、キジ、エナガ、ツグミ、オオタカと思われるタカの飛翔。

(参加者：大人9人 子ども2人 報告：網代春男)

下大和田季節のたより

12月23日 田んぼに氷、畦に霜柱。ノスリの飛翔を確認(野鳥専門家の越川さん)。YPPでにぎわう広場脇のクヌギにはエナガの群れが訪れていました。

(報告：高山邦明)

「虫たちの越冬戦略(朝比奈英三著)」という本を読みました。昆虫は一般的に氷点下10～20度でも凍らないし、北海道の寒さに耐える行がのまゆ(前蛹)はマイナス30度で凍結しても平気なのだそうです。谷津田で冬を越す生きものも様々な工夫で寒さに耐えているのでしょう。

高山邦明